

「国立公園の魅力を支える地域活動にふれる」

担当教員名 高田 雅之

1 コースの概要

日 程	2013年9月1日～5日
場 所	北海道 利尻礼文サロベツ国立公園
参加人数	25人

2 コースの目的

利尻礼文サロベツ国立公園の優れた自然にふれながら、国立公園の管理、NPO 活動、博物館活動、農業と地場産業など、自然環境の保全や産業振興との共生に取り組む人々の活動現場を訪ね、学習と対話をとおして自然の魅力を支える地域社会と地域活動の在り方について考えることを目的とします。サロベツ湿原では国立公園の管理と自然再生、農業との共生について、また利尻島では外来種問題、観光との関わり、生き物の調査活動などについて、現場と人から学びます。

3 事前学習

以下の5つのテーマに分かれて現状と課題を調べ、発表するとともに、全員で問題意識を共有しました。現場から多くのことを学べるよう、調べる中で湧いてきた疑問をできるだけ抱えていくことを心がけました。

- 1) サロベツ湿原の自然と再生
- 2) サロベツの農業と観光
- 3) 利尻島の自然と観光利用



環境省自然保護管から国立公園管理の講話

- 4) 自然を守る地域活動
- 5) 国立公園の管理と課題

4 行程 (内容)

1日目

午後に稚内市に全員が集めたのち、北海道遺産となっている北防波堤ドーム、漁業の歴史を留める旧瀬戸邸など、国立公園のゲートシティ稚内市を散策しました。

2日目

ノシャップ岬にある寒流水族館で北の海に生きる生き物たちと対面したのち、サロベツ湿原へ向かいました。途中幸運にもタンチョウの番いに遭遇。湿原センターで環境省自然保護管から国立公園の自然と保全の取り組みについて学んだのち、湿原の自然再生の現場を見学しました。夜は宿で湿原の保全に取り組むNPOの人からサロベツの豊かな自然と抱える課題について学びました。

3日目

昨日に引き続いて湿原センターを拠点に活動するNPOの人から地域におけるNPO活動などについて学び、木道を散策して直に湿原にふれました。次いで地域の主要産業である酪農について、豊富牛乳公社の工場と酪農家を訪ね、自然と農業との調和について考えました。その後サロベツを離れ、稚内からフェリーで利尻島へ、船からは異国サハリンが遠くに眺められました。夕食後は自然環境の保全に取り組む環境省アク



木道からサロベツ湿原を観察する

ティブレンジャー、博物館学芸員など3人から、利尻の自然を守る活動や生き物を調べる意義などについて講話を受け、夜遅くまで議論は続きました。

4日目

利尻の自然に直接触れながら、登山道の利用による浸食問題、種富湿原と南浜湿原における外来種問題など、人間が自然に及ぼす影響とそれを減らす活動について現場で学習しました。また博物館では生き物の標本の大切さについても学びました。その後外来種のオオハングソウの除去に挑戦し、意外に重労働であることを実体験しました。そして夕食後は昨日に引き続き座学にて、自然ガイドと、登山道補修に取り組む人から、観光利用と自然への影響との関係について学んだのち、地域の視点から昨夜にも増して熱のこもった意見交換を行いました。

5日目

利尻島に別れを告げ、稚内フェリーターミナルで解散し、それぞれ帰途につきました。

5 事後学習

事前学習で調べたそれぞれの5つのテーマについて、現地で実際の自然に触れ、地域で活動する人々から直接話を聞き、意見交換した結果をもとに、新たな知識・理解・発見を盛り込んでグループ成果を取りまとめ、発表を行いました。そして各人がこの旅で何を、何を感じ、自分自身に成果をどう還元していきたいかについて振り返り、フィールドスタディを総括したレポートを提出してもらいました。

各自のレポートからは現場に触れずには決して得られない印象と考察が感じとられ、雄大で時に厳しい自



山本牧場で酪農の現場を見学



利尻岳の名水付近で観光客による登山道の浸食問題を視察

然をベースに地域で創造的に活動する人々が学生達に手渡した体験の大きさを実感します。国立公園を日々支え続ける地域の人々の姿をとおして、優れた自然を保全することの大切さを改めて実感できたのではないのでしょうか。

学生の声

「北海道フィールドスタディ (FS) 体験記」



3年 野中 勇輔

私は、ゼミで学んだ外来種問題や国立公園の資源管理のあり方を学びたいと思い、北海道 FS に参加しました。FS では机上の勉強では感じることができなかった問題に対する「危機感」を感じることができました。それは現場の有識者の方から直接話を聞き、自らの目で現場を見たからこそ、得ることができたものでした。事前学習で問題の所在を知り、現地で問題の本質を知る。本質を知ると関連する他の問題にも気づく。FS を通して多くのことを学ぶことができました。

また、多くの方のお話を聞くなかで自分の将来についての考えが今までとは少し変わったように思います。自分が、将来どのような人生を送りたいのか。どのような場所で生きていきたいのか。東京でビジネスマンとして働くイメージしか頭になかった私に、首都圏の暮らしとは異なる生活・仕事をする方々の話は確実に新たな価値観を与えてくれました。勉強の観点でも、それ以外の観点でも新たな発見に出会うことができる FS でした。